

素案に関する意見・質問票に対する回答等 【第4回委員会（7月20日）】

基本施策4. 観光の振興（素案P49.50）

	No.	委員名	提出日	意見内容	意見に対する回答
意見	1	山國 和志	2月24日	<p>山崎インター又は市内中心部に大型バスが数台駐車可能な飲食・宿泊可能な施設があれば、インバウンドに対しても効果があると思います。関西圏は特にアジア地域の客が多いので、英語はともかく中国語、韓国語に対応する案内板やパンフレットも必要になってくると思います。日本人、外国人を問わず受入れ体制を整備すべきです。</p>	<p>インバウンドの受入れ体制についてですが、まずどの国の外国人をターゲットにするか調査・検討が必要であると考えております。参考ですが、姫路城のH30年度言語別入場者数386,909人のうち英語188,578人（48.7%）、フランス語36,731人（9.5%）で、全体の約6割を占めております。姫路城から宍粟市には1時間程度で移動可能であるため、いかにして姫路城から宍粟市への観光を促進する仕組みづくりが必要と考えております。想定するターゲットは、日本の田舎の風景や生活に関心が高く、長期滞在を基本に来日している欧米豪の外国人が有力ではないかと考えており、今後さらにどこの国が宍粟市の資源に興味があるのか検討をしてみたいです。また、山崎インター又は市内中心部に大型バスの受入れ可能な施設についてですが、現在山崎酒蔵どおりに大型バスでの来場があります。その際に受け入れる駐車場がないので、近くで降りられて駐車は別のところでされております。今後駐車場の確保についても検討をしてみたいです。</p>